

# 大野小学校の セリダンの木と旌表旗

せいひょうき

大野城市の文化財 第四十七集



二〇一七年 大野城市教育委員会



## じよ 序

大野小学校は、大野城市内で最も伝統のある小学校で、126年の歴史の中で様々な宝を持っています。大野城市教育委員会では、平成28年8月、そのうちのセンダンの木と旌表旗を取り上げて、「夏の企画展『センダンの木と旌表旗～大野小学校 2つの宝～』」を開催し、多くの方々に見学していただきました。本書は、この企画展の内容をまとめたものです。

センダンの木と旌表旗は、約1世紀の間大切にされてきた大野小学校の伝統の源であり、大野城市の貴重な文化財です。今回この冊子をご覧になられた方々が、2つの宝の歴史について知ることで、その当時の人々の思いを感じていただけたら幸いです。

最後になりましたが、貴重な資料を提供していただいた大野小学校、樹木医の飯田稔様をはじめ、多くの方々や機関にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

平成29年3月31日

大野城市教育委員会  
教育長 吉富 修

## 目次

大野小学校の2つの宝 <sup>たから</sup> .....	1
1. 大野小学校の歴史 <sup>れきし</sup> .....	2
2. センダンの木	
(1) センダンの木がやってきた.....	4
①なぜセンダンを植えた？.....	4
②センダンとは.....	5
(2) センダンの木が病気になった！.....	10
①病気になったセンダンの木.....	10
②センダンの木を守ろう！.....	11
③治療開始 <sup>ちりょう</sup> .....	12
3. 旌表旗の受賞 <sup>せいひょうき じゆしょう</sup>	
(1) 旌表旗制度 <sup>せいひょうきせいど</sup> .....	13
(2) 大野尋常高等小学校の旌表旗の受賞 <sup>じんじょう せいひょうき じゆしょう</sup> .....	14
①旌表旗獲得のために <sup>せいひょうき かくとく</sup> .....	14
②授賞式 <sup>じゆしょう</sup> .....	15
4. これからの大野小学校のセンダンの木と旌表旗 <sup>せいひょうき</sup> .....	16
参考文献 <sup>さんこうぶんけん</sup> .....	18

## 凡例

1. 本書は平成28年8月に歴史資料展示室で開催した「夏の企画展『センダンの木と旌表旗 ～大野小学校 2つの宝～』」の解説冊子をまとめなおしたものです。
2. 本書に掲載した写真・記事につきましては、下記の方々および機関からご協力<sup>きょうりやく</sup>をいただきました。記して感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)
- 飯田稔・大野城市立大野小学校・株式会社西日本新聞社
3. 出典の記載のない本書に掲載の写真は、大野城市教育委員会所蔵<sup>しよぞう</sup>のものです。

## 大野小学校の2つの宝<sup>たから</sup>

平成27年に125周年を迎えた大野小学校は、明治期から続く歴史ある小学校で、長い歴史の中で様々な宝を持っています。そのうちの2つが、センダンの木と旌表旗です。この2つの宝は深い関わりがあり、大正3年（1914）に優良校の証である旌表旗を受賞した記念に植えられたのがセンダンの木です。

今回の「大野城市の文化財」では、貴重な写真資料とともに、①大野小学校の歴史、②センダンの木、③旌表旗の受賞、④これからの大野小学校のセンダンの木と旌表旗について紹介します。



大野小学校のセンダンの木と校舎

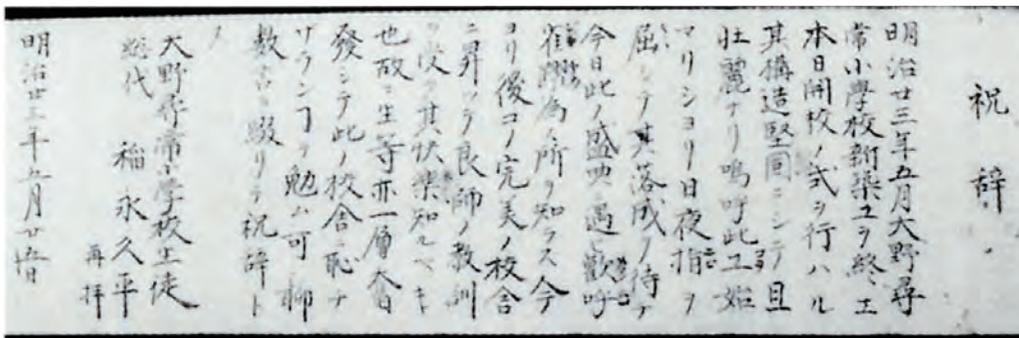
# 1. 大野小学校の歴史

大野小学校は、大野城市役所から歩いて約10分のところ、大野城市瓦田3丁目にあります。平成29年（2017）5月で創立127年を迎える大野城市内で最も古い小学校で、長い歴史を持ちます。

大野小学校のはじまりは、明治23年（1890）にさかのぼります。明治22年（1889）、市制・町村制により大野村が誕生しました。このとき、筒井尋常小学校と大利小学簡易科を併せて、瓦田字井尻800番地に新校舎を建築して「大野尋常小学校」と名づけます。翌年の明治23年5月25日に開校式がおこなわれ、大野小学校の歴史が始まります。

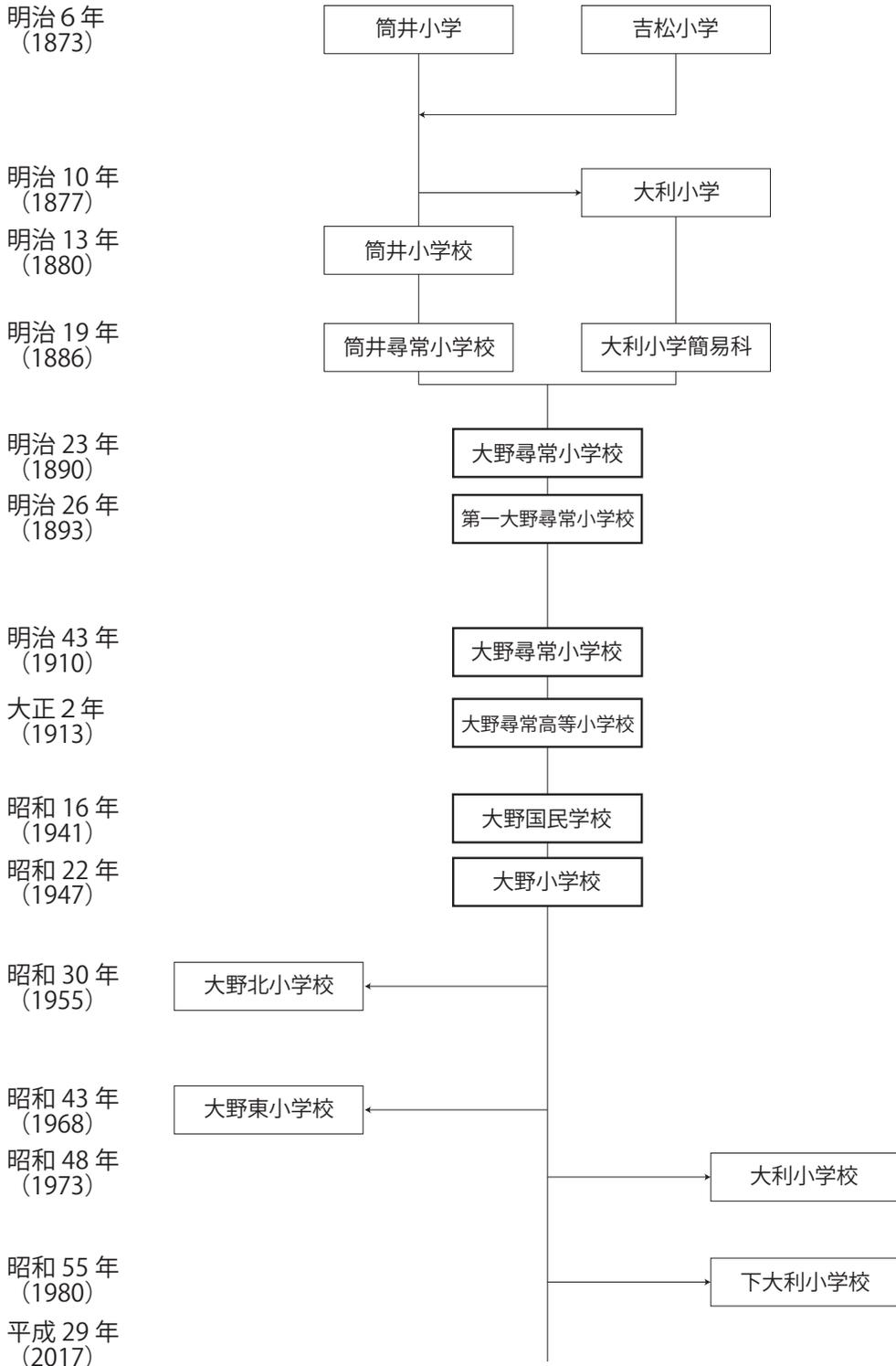
大正2年（1913）には高等科を設置して、校名が「大野尋常高等小学校」に変わり、翌年の大正3年には旌表旗を受賞しました。

その後、昭和16年（1941）の国民学校令により「大野国民学校」になり、厳しい戦時教育が始まりました。そして、太平洋戦争終戦後の昭和22年（1947）から施行された学校教育法により、現在の6・3制の学校制度が定まり、校名も「大野小学校」となって今に至ります。



明治23年（1890）大野尋常小学校開校式生徒代表祝辞  
（『大野城市史下巻 近代・現代編』より転載）

## 大野小学校のあゆみ



出典：百周年記念誌おおの（一部抜粋・改変）

## 2. センダンの木

### (1) センダンの木がやってきた

大野小学校のシンボルであるセンダンの木は、樹木医の飯田稔さんによると樹齢110～120年と考えられており、平成6年（1994）に大野都市の天然記念物に指定されています。

大正3年（1914）の旌表旗受賞を記念して、大野都市牛頸の山中から運ばれて、校庭に植えられました。植樹当日は、牛頸尋常小学校の子どもたちも参加しての大掛かりな事業だったようです。当時は、校庭と民家の境に植えられたそうですが、たび重なる校庭の拡張工事によって、現在のようにほぼ中央に位置するようになりました。

#### ①なぜセンダンを植えた？

旌表旗受賞の記念の植樹にセンダンが選ばれたのは、「梅檀は双葉より芳し」※の故事になぞらえ、大野小学校の子どもたちが優れた素質を子どものときから磨き、育っていくこと、また、大きな心を持った人に育つことを願って植えられました。

※「梅檀は双葉より芳し」

立派になる人は、幼いころから優れていることのたとえ。



センダンの花（初夏）

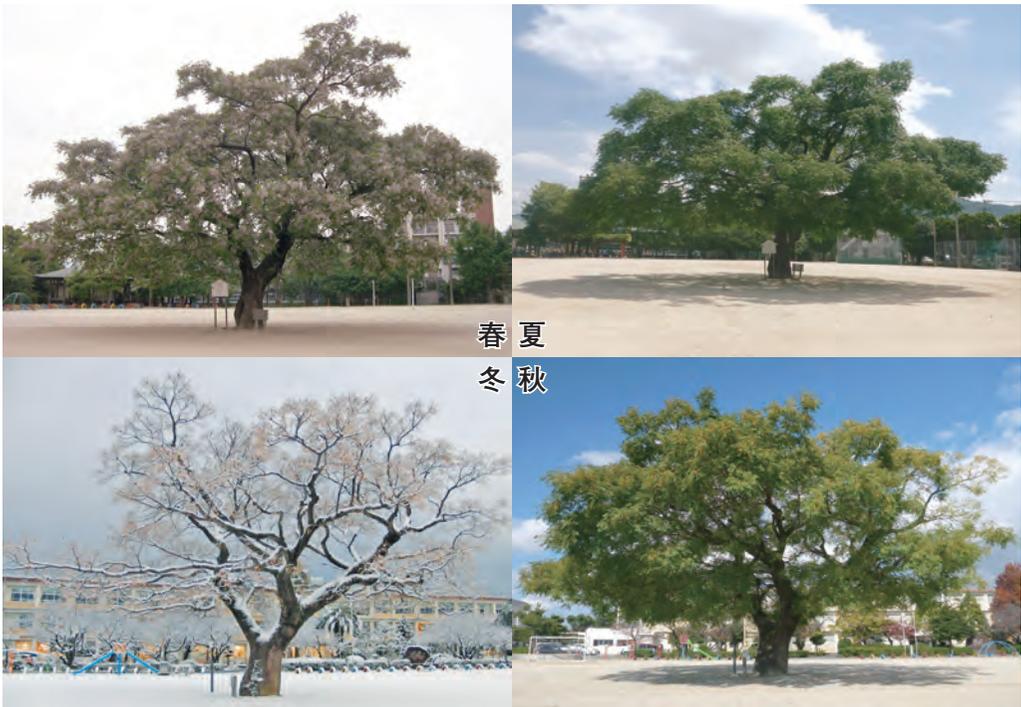


センダンの実（秋）

## ②センダンとは

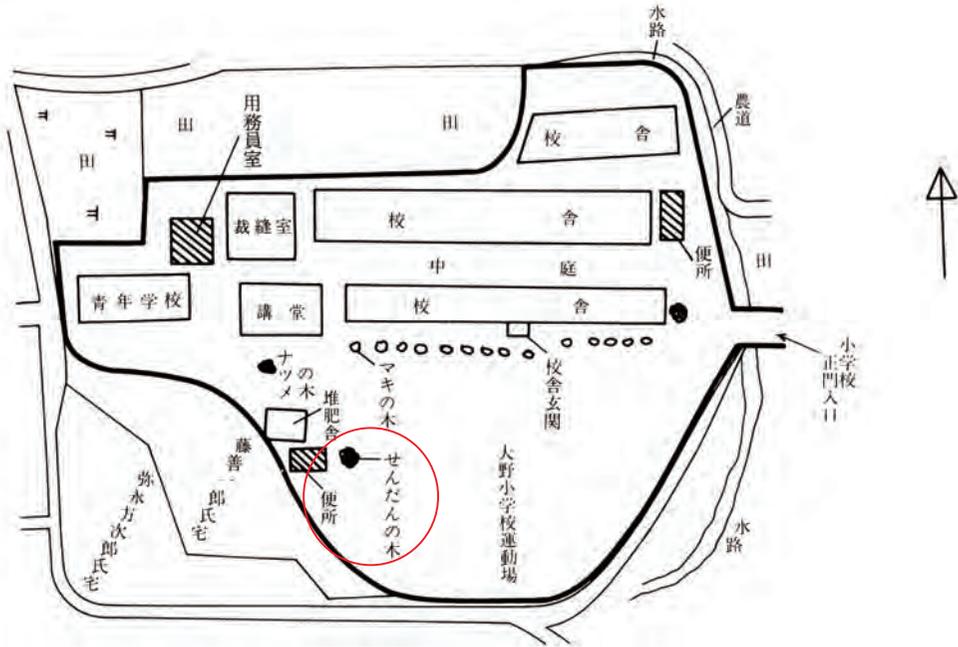
センダンは、センダン科の樹木で熱帯アジアに広く分布している落葉の高木です。日本では、九州地方や四国地方でよく見かけます。初夏には、小さな紫色の花が房状に咲き、秋には、1 cm ほどの黄色い実を付けます。

センダンは、古くは、棟（現代表記では「おうち」と呼ばれ、文学作品の中にも登場し、古い時代から近畿地方でも見られたようです。清少納言の枕草子（三十五）には、「木のさまにくげなれど、棟の花、いとをかし。かれがれにさまことに咲きて、かならず五月五日にあふもをかし。」（訳：木の様子は感じがよくないけれど、棟の花はたいへんおもしろい。乾いたように一風変わった咲き方をし、必ず五月五日の節供に咲きあうのもおもしろい。）と書かれています。また、万葉集（巻5 - 798）には、山上憶良が大伴旅人に送った「妹が見し棟の花は 散りぬべし 我が泣く涙 いまだ干なくに」（訳：妻が見た棟の花はもう散ってしまいそうだ 私の悲しみの涙はまだ乾かないのに）の歌も詠まれています。



春夏秋冬の大野小学校のセンダンの木(冬のセンダンの木の写真は 大野小学校提供)

校舎配置図と写真で振り返るセンダンの木の位置  
 (校舎配置図は『開校百周年記念誌おおの』より転載)

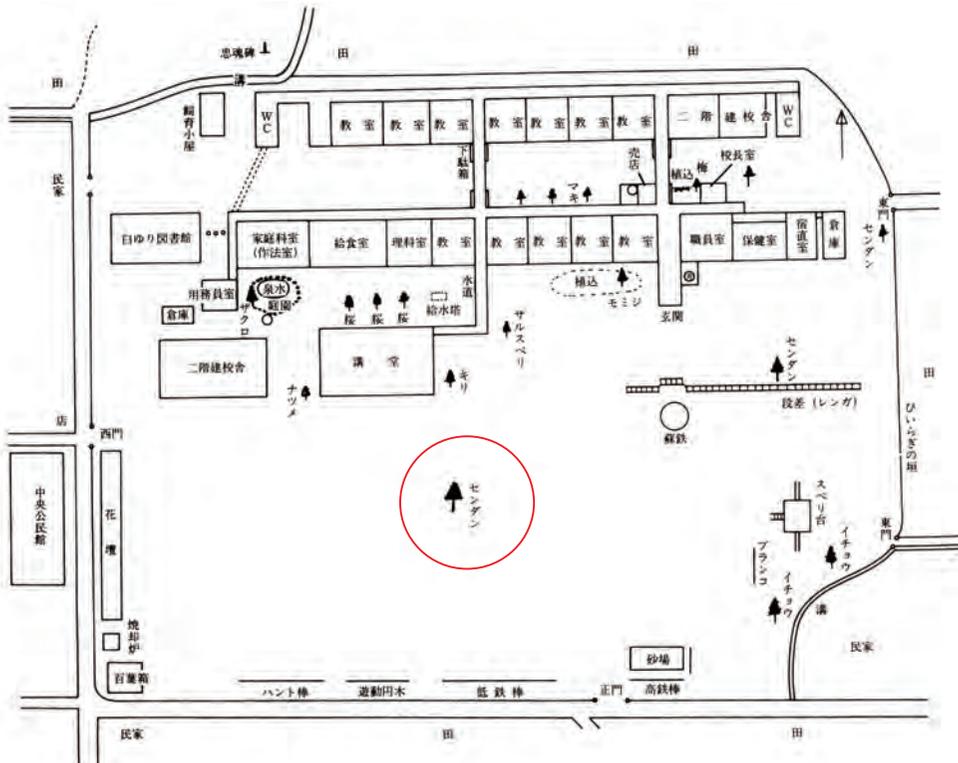


大正末年頃の大野尋常高等小学校校舎配置回想図  
 (昭和4年度高等科卒業生 瀬利稔)



大正初期の校舎全景 (大野小学校提供)

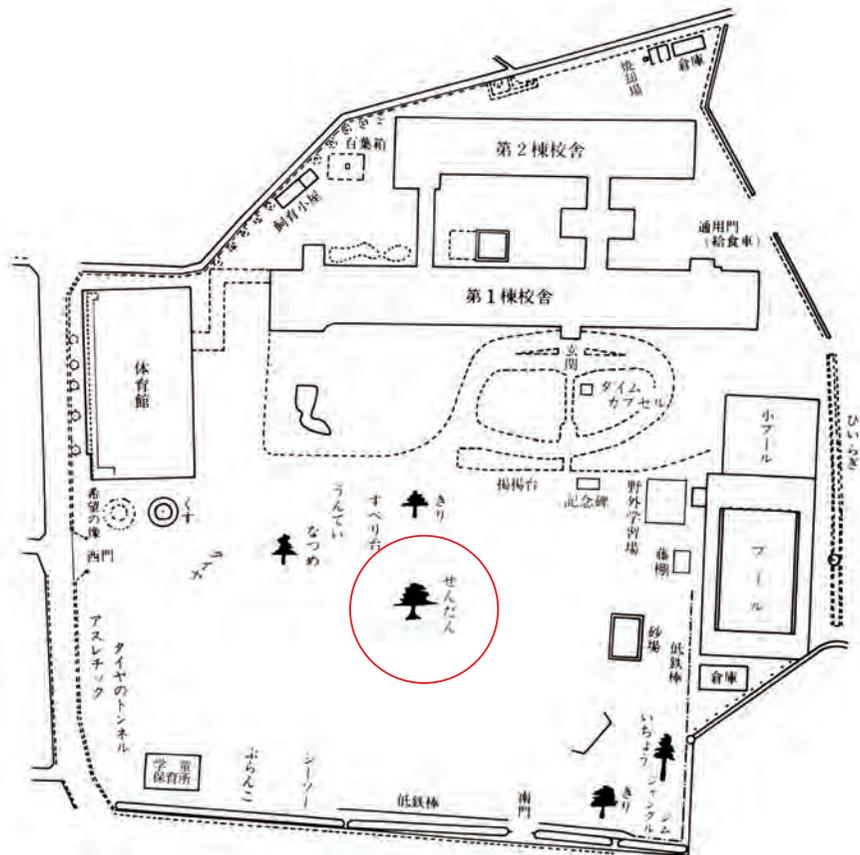




昭和33年頃の大野小学校校舎配置回想図（昭和34年度卒業生 相川源晴）



昭和35年当時の校舎全景（大野小学校提供）



平成2年の大野小学校校舎配置図

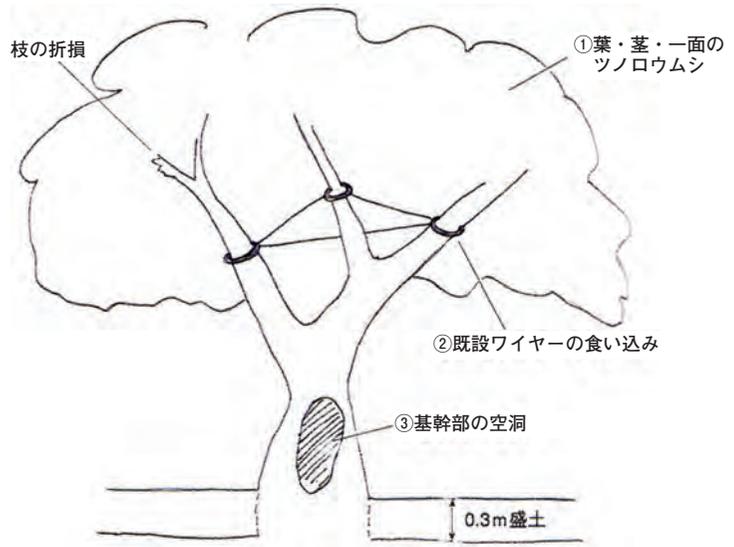


平成2年当時の校舎全景 (大野小学校提供)

## (2) センダンの木が病気になった！

### ① 病気になったセンダンの木

大正時代<sup>たいしょう</sup>に植えられたセンダンの木ですが、今から20年ほど前の平成7年（1995）ごろに枯れかかったことがありました。木の根元に土が盛<sup>も</sup>ってあったこと、根元に大きな穴<sup>あな</sup>があいていたこと、木が裂けないように枝を結<sup>むす</sup>んでいたワイヤーが木に食い<sup>く</sup>込んでいたことが原因<sup>げんいん</sup>で、めっきり弱ってしまいました。



治療時の状況（飯田稔氏提供）



ワイヤーの食い込み（飯田稔氏提供）



根元の大きな穴（飯田稔氏提供）

## ②センダンの木を守ろう！

枯れかけたセンダンの木を救おうと、大野小学校のPTAが治療費を集めるためのバザーを平成8年（1996）2月18日に開催しました。バザーでは、家庭や市内の協賛会社から持ち寄った不要品や、クッキーや漬物などの手作り品の販売、野菜やうどん、焼きそば、ぜんざいといった食品の即売などをしたそうです。また、児童会も毎朝校門の前に立ち募金活動をおこないました。このような努力があり市の予算と、バザーの売り上げ、募金活動で集まった寄付金を使って、センダンの木の治療がおこなわれることになりました。

大野城市瓦田三丁目の大野小学校（村山哲男校長、七百八十八人）で十八日、樹齢百五十年近いとされる学校のシンボル、センダン

### 「治療費、ねん出にバザー」

大野城市の大野小  
シンボル・センダンの木守れ

父母が不用  
品3000点提供



センダンの木を保護しようと大野小で開かれたバザーで並べられた不要品を品定めする人たち

の木を保護しようと同校PTAがバザーを開いた。家庭や市内の協賛会社から寄せられた不要品約三千点が並べられ、大勢の家族連れなどでにぎわった。センタンは大正三年、興合の場となった。

から優良校として表彰されたのを記念し、市西部の山中から移植。平成六年には市天然記念物に指定されたが、台風の影響などで枯れかかっているため、木の治療費をねん出しようとバザーが企画された。体育館であった不要品セーラーは、十内のガラス器から五千円のスイーツまで豊富な品ぞろえ。訪れた人たちは行列をつくり、次々と買い求めていた。運動場には野菜や豚汁などを販売するテントが立ち並んだほか、子供たちのゲーム広場も設けられ、休日の小学校は児童と地域の人たちの憩い

バザーについての新聞記事 西日本新聞 平成8年（1996）2月19日朝刊

### ③治療開始

治療をされた樹木医の飯田さんは、盛られた土を取り除き、肥料などを混ぜて土を良い状態にしました。また、根元の穴をふさぎ、ワイヤーを木に負担がかからないようなやり方でかけなおしました。約1年にわたる治療を終えたセンダンの木は、元気な姿を取り戻しました。



治療が終わった根元の穴  
(飯田稔氏提供)

## センダンの木の治療の様子



治療中のセンダンの木



土を良い状態にする作業 (飯田稔氏提供)



根元の穴の治療 (飯田稔氏提供)



活力剤を注入 (飯田稔氏提供)

### 3. 旌表旗の受賞

#### (1) 旌表旗制度

福岡県には就学率・出席率を特に重視してその成績によって表彰する、「旌表旗制度」という独自の表彰制度がありました。この審査の対象は、①就学率と出席率、②施設・校具の充実、③適切な学習指導と子どもたちの学業成績の3点でした。明治34年(1901)から昭和20年(1945)までの45年間にわたり、毎年3～5校、計138校が選ばれました。なお旌表旗と賞状の両方が授与されたのは、大正12年(1923)までの60校のみで、その後は賞状だけの表彰になりました。

表彰を受けるための基準を達成することは、簡単なことではありません。就学率・出席率や学業成績の向上は、長い年月にわたる子どもたち・先生の努力はも



旌表旗

(『開校百周年記念誌おおの』より転載)

とより、父母のたゆまぬ協力と深い理解から生まれるものでした。それだけに表彰を受ける学校にとっては大変な名誉であり、地域全体の誇りとして、長くその榮譽がたたえられました。表彰校は旌表旗小学校(旌表小学校)と呼ばれ、他校のお手本となり、また憧れの的でもありました。



旌表旗表彰状

(『開校百周年記念誌おおの』より転載)

(2) 大野尋常高等小学校の旌表旗の受賞

① 旌表旗獲得のために

「旌表旗を受賞したい」

という思いはどの学校も同じでした。しかし、明治末年ごろは、日露戦争後の経済恐慌の深まりにより、国も地方の財政も厳しい状況にありました。

そんな中でも、大野村では校地を広げ校舎を増築して、増加する子どもたちの教育に支障のないように努力を尽くしました。しかし、設備備品面で準備ができないこともあり、その場合は村民たちの惜しみない援助がありました。こうした村や村民の努力もあり、大野尋常高等小学校は、大正3年(1914)に旌表旗表彰の栄誉に輝きました。

**○旌表旗授與式**

福岡縣知事は既報の如く四日午前十一時  
縣廳内縣參事會室に於て旌表旗授與式を  
舉行したり授與の榮を得たる學校は築上  
郡西吉富尋常高等、宗像郡赤間尋常高等  
山門郡柳河尋常高等、筑紫郡大野尋常高  
等の四校にして參列したるは當該郡長視  
學岡村長學校長の諸氏にして谷口知事よ  
り一場の訓示ありて各學校長に對し旌表  
旗を授與したり表彰文左の如し

▲大野尋常高等(校長古賀恭祐) 大野村  
の中央に位し兒童通學に便利にして且四圍風  
教衛生に害する者あるなく學校所在地として  
は又適好の場所なり十一學級の編成にて十一  
の普通教室外新築の完備せる講堂兼唱歌室あ  
りて校内又二家族分の教員住宅を設けて現校  
長は之れに住めり于三百餘坪の運動場に至り  
ては他に多く見ざる所、唯奇異なるは運動場  
中一の遊戯器械の設備なき事なり之れ本  
校の特徴にして此の無一物に依りて眞の身體  
精神の鍛練を爲しつゝあり四百餘坪の風致園  
果樹園草花園に百十餘坪の農業實習田あり就  
學歩合は百中の百出席歩合九六、五三同校を  
中心とせる青年會巡迴文庫報徳會等何れも其  
の成績優異なり

旌表旗受賞とその理由を伝える当時の新聞 (一部抜粋)  
福岡日日新聞 大正3年(1914)6月5日

## ②授賞式



第4代校長 古賀恭祐先生  
(大野小学校提供)

大正3年(1914)6月4日授賞式当日、筑紫郡長と大野村長に伴われた古賀恭祐校長は羽織袴で式場に臨み、多数の顕官(地位の高い官職のこと)や教育関係者が居並ぶ前で県知事からうやうやしく旌表旗と賞状が授与されました。感激いっぱいの胸に旌表旗を抱いて人力車に乗り意気揚々と帰校すると、校庭には全校児童をはじめ、学務委員や村民一同が列をなして校長先生を迎え、村を挙げて盛大な受賞報告会がおこなわれました。

### 古賀恭祐先生について

古賀恭祐先生は、大野村大字筒井の出身であり、明治17年(1884)から明治22年(1889)まで筒井小学校代用教員となり、さらに明治28年(1895)から大正11年(1922)まで第一大野尋常小学校(現在の大野小学校)の訓導(小学校の先生のこと)、明治32年(1899)からは校長として、前後通算32年間にわたり大野の教育に力を尽くし、退職後は地元大野村の行政にも貢献しました。校長在任中は、校区の拡張、校舎の増築、小学校卒業後の補習学校を設けるなどの様々な事業をおこないました。

写真の石碑は、古賀先生が退職される際に建てられたもので元は大野小学校内にありましたが、現在は、大野城市商工会館の前に移され、大野小学校を望みながら建っています。石碑には、「先生資性醇朴ニシテ情熱ニ富ミ、事ニ當ルヤ勇往邁進」とあり、素直で、目標に向かってひたすら突き進む先生の性格が読み取れます。



古賀恭祐先生碑

## 4. これからの大野小学校のセンダンの木と旌表旗

大野尋常高等小学校（現在の大野小学校）が旌表旗を受賞して103年の時が過ぎました。

旌表旗の受賞を記念して植樹されたセンダンの木は、校庭の中央で元気に生きつづけています。それは幹周りにも現れており、樹木医の飯田さんによると、平成7年（1995）には2.6mだった幹周りが、平成27年（2015）には3.5mに成長していたそうです。

大野小学校では、毎年5月25日の創立記念日を祝う「せんだんの集い」をおこなっています。せんだんの集いは、昭和60年（1985）に「せんだんまつり」の名で始まりました。そして、平成5年（1993）に「せんだんの集い」に改められ現在に至ります。

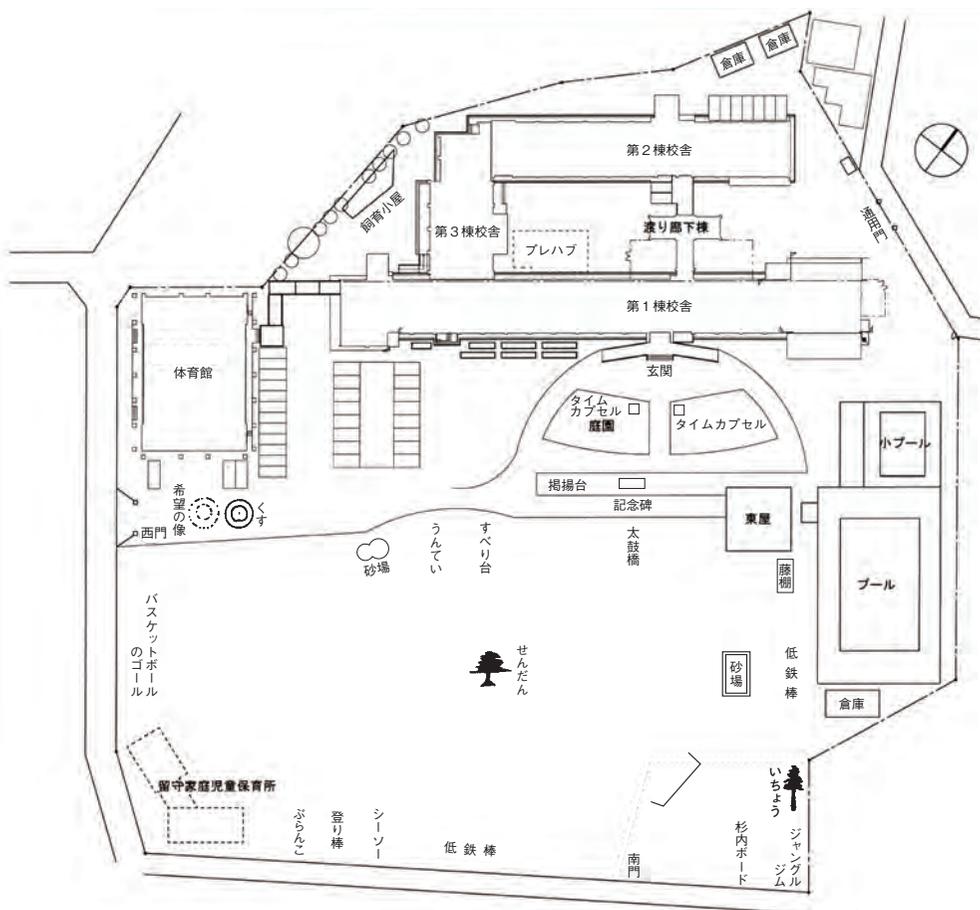


せんだんの集いの様子（大野小学校提供）

授与された旌表旗と賞状は、約100年もの間大切に保管されています。現在は、額に納められた状態で校長室に飾られており、当時の栄誉をたたえています。

センダンの木と旌表旗という2つの宝の根底には、子どもたちの成長を願う多くの方の思いがありました。この思いは、大野小学校の伝統となっており、今日まで受け継がれています。また、センダンの木は大野城市指定文化財であり、旌表旗は指定文化財ではありませんが地域の大切な文化財です。これらの伝統、そして文化財が、約1世紀の間多くの人々の思いによって受け継がれてきたように、これからは私たちが次の世代につなげられるよう大切にしていきたいと思います。

げんざい こうしゃはいち こうしゃぜんけい  
**現在の校舎配置図と校舎全景写真**



平成28年度大野小学校校舎配置図



平成28年の校舎全景

さんこうぶんけん  
参考文献

- 赤司岩雄（2004）『大野城市のいしぶみ』大野城市
- 井上義巳（1984）『福岡県の教育史』思文閣出版
- 大野小学校開校百周年記念事業実行委員会（1990）『開校百周年記念誌 おおの』  
大野小学校開校百周年記念事業実行委員会
- 大野小学校創立百二十五周年記念事業実行委員会（2015）『大野城市立大野小学校  
創立百二十五周年記念誌 大野』大野城市立大野小学校創立百二十五周年  
記念実行委員会
- 大野城市教育委員会「大野城市歴史資料展示室 解説シート 天然記念物 No.1  
センダンの木」
- 大野城市史編さん委員会（2004）『大野城市史 下巻 近代・現代編』大野城市  
木下正俊、小島憲之、東野治之（1995）『新編日本古典文学全集 7 萬葉集②』  
小学館
- 九州日報「旌表旗授與式」1914年 6 月 5 日
- 九州日報「普通教育奨励 福岡縣の表彰」1914年 4 月 2 日
- 黒沢弘光（2001）『21世紀によむ日本の古典 5 枕草子』ポプラ社
- 永井和子、松尾聰（1997）『新編日本古典文学全集18 枕草子』小学館
- 西日本新聞「“治療費、ねん出にバザー」1996年 2 月19日朝刊
- 西日本新聞「センダンに元気戻る」1996年12月26日朝刊
- 根元浩（2010）『ジュニアのための万葉集三巻 平城の京 一山部赤人・山上憶  
良・大伴旅人 他一』汐文社
- 平田善積（2001）「三、教育の拡充—旌表旗獲得に賭ける小学校」『目で見ると  
筑紫・太宰府の100年』郷土出版社
- 福岡県教育委員会（1957）『福岡県教育史』福岡県教育委員会
- 福岡県教育百年史編さん委員会（1980）『福岡県教育百年史 第五巻 通史編  
（I）』福岡県教育委員会
- 福岡県教育百年史編さん委員会（1980）『福岡県教育百年史 第七巻 年表・統  
計編』福岡県教育委員会
- 福岡日日新聞「旌表旗授與式」1914年 6 月 5 日
- 福岡日日新聞「表彰と旌表旗授與」1914年 4 月 2 日

大野小学校のセンダンの木と旌表旗  
大野城市の文化財 第47集

平成29年3月31日

発行 大野城市教育委員会  
福岡県大野城市曙町2丁目2番1号

印刷 九州コンピュータ印刷  
福岡市南区向野1丁目19番1号

